

@h



2050年の函館。

特集

〈連載〉
中川大介
西野鷹志
庄司証
長谷山裕一
米田哲平／小宮伸二
夏井俊介／近藤緑
押野友美／ふくだたくま
中村ひでのり



TAKE FREE

@h 60 巻元「アット・エイチ」

2019年冬号(第60号) 2018年12月20日発行(季刊)
発行人 堀田 誠 編集人 中村ひでのり



(一財)北海道国際交流センター(HIF)
040-0064 函館市元町1-1-1 TEL.0138-22-0770 FAX.0138-22-0060
E-mail volu@hif.or.jp http://www.hif.or.jp/volu/

LUNCH MENU

海鮮中華のおすすめランチ

特選ランチコース

ラビスタ函館ベイ10周年記念



- 冷菜3種盛り合わせ
- 道央伊達産めくみ鶏のから揚げ
- 道産牛肉とピーマンの細切り炒め
- 海老チリソース
- 道南上ノ国産フルーツボーク入りカレー風味 麻婆豆腐
- 蒸し餃子2種
- 蟹あんかけ炒飯
- 本日のおすすめスープ
- 本日のおすすめデザート
- コーヒー

【おひとり様】**3,300円**
(税抜3,056円)

飲茶ランチセット



- おすすめ飲茶5種
- 海老チリソース
- 水餃子入りスープ
- 野菜サラダ
- デザート
- コーヒー・茶

【おひとり様】**2,300円** (税抜2,130円)

七飯産
牛ロース
ステーキ炒飯
2,700円
(税抜2,500円)
(スープ・デザート・
コーヒー付)

ふかひれあんかけラーメン
各**2,000円** (税抜1,850円)
(デザート・コーヒー付)
●ふかひれあんかけチャーハン
●ふかひれあんかけ焼そば

海鮮あんかけ焼そば
各**1,500円** (税抜1,300円)
(スープ・デザート・コーヒー付)
●海鮮あんかけチャーハン

五日チャーハン
1,500円 (税抜1,300円)
(スープ・デザート・コーヒー付)

サンラーガンメン
酸辣湯麺
1,500円 (税抜1,300円)
(デザート・コーヒー付)

カニあんかけ
チャーハン
1,500円 (税抜1,300円)
(スープ・デザート・コーヒー付)

海老チりあんかけ
チャーハン
1,500円 (税抜1,300円)
(スープ・デザート・コーヒー付)



函館中華料理
ラビスタ函館ベイ1F
予約・お問い合わせ TEL.0138-23-6225 <内線番号56>
ランチ:11:30~14:30(L.O.14:00)
ディナー:17:30~21:30(L.O.20:30、コースメニューのみ20:00)
季節により営業時間が変更になる場合がございます。

ピュッフエスタイルのランチもおおすすめです! **1,800円**~
(税抜1,667円) **90分** Casa de Norte
ラビスタ函館ベイ1F
予約・お問い合わせ TEL.0138-23-6377 <内線番号57>
ランチ:11:30~14:30(L.O.14:00)
ディナー:17:30~21:30(L.O.20:30、コースメニューのみ20:00)
季節により営業時間が変更になる場合がございます。

特集 2050年の函館。 p4

「域内循環」が未来の街に活気生む p5
 永澤大樹 函館商工会議所中小企業相談所長

ダイバーシティが函館の未来をつくる p7
 古地順一郎 北海道教育大学函館校准教授

人をふっと幸せにする技術 p9
 塚田浩二 公立はこだて未来大准教授

市民挙げて「おもてなし」 p11
 奥平 理 函館工業高等専門学校教授

キーワードは「ゼロエミッション」 p13
 三浦汀介 北海道立工業技術センター長

みなさんにお訊きました。 p15
 「どうなっている？ 30年後の函館」
 QUESTIONNAIRE

街に関する一考察 p21
 長谷山裕一

人と水と空と森の話 p22
 打つも果てるも 中川大介

昔の子ども、今どきの子ども p25
 プログラミング思考 庄司 証

連載 小宮伸二／近藤 緑／米田哲平／夏井俊介 p26-29
 ふくだたくま／押野友美／中村ひでのり

【ライカはゆく】 p30
 特別寄稿／第12話

牡蠣とウイスキー p30
 西野鷹志／文・写真

H I F インフォメーション I N F O R M A T I O N p19・20

本誌設置場所 p34
 FROM EDITOR・奥付



1963年、テレビアニメシリーズとして登場した「鉄腕アトム」。交通事故死した博士の息子に似せて作られたアトムは、人間とほぼ同等の感情と、さまざまな能力を持つロボットだった。この時代に誰が、ロボットが本当に活躍すると予想しただろう。55年前の夢は、今、確実に世界に広まろうとしている。

ものすごいスピードで変化してゆく社会にあって、今から32年後の2050年には想定を超えるようなことが起きるかもしれない。ロボットが権利を主張して人間を困らせたり、人間がロボットに使われたり。そのとき、函館の街はどんな姿だろう。

2050年の地域の姿をイメージして、そこにつながる道筋を考え、次代の担い手を後押ししてゆくことが、大人としての役割ではないだろうか。「@h [アット・エイチ]60号」が、2050年の函館を真っ白なスケッチブックに描くヒントになったらいいと思う。

(一財)北海道国際交流センター(HIF)
 事務局長 池田 誠



私たちは函館空港にて、空の安全をサポートしています。

すべてのお客様に
 安心・安全をお届けします。

昭和40年の創業以来、地域のみなさまの暮らしに寄り添うように、(株)マルゼンシステムズは成長を続けてまいりました。おかげさまで、清掃・警備・設備保全など、確かな経験で大きな信頼をいただいております。これからも、その豊富な知識と経験を基に、品質の高いサービスをお届けしてまいります。

Maruzen

株式会社マルゼンシステムズ

本社／函館市末広町22-21

ビル管理業務、警備業、人材派遣業務、指定管理者業務

建築物環境衛生総合管理業 北海道17総第26号
 建築物飲料水貯水槽清掃業務 北海道59第13号
 浄水槽保守点検業 北海道浄保63第5号
 管工事業 北海道知事許可(般-25)渡第04617号

公安委員会認定第38号
 一般労働者派遣事業 般01-020020

お電話でご相談はこちらへ。

☎ 0138-26-9335 (本社)

札幌営業所／北斗営業所
 七飯営業所／オホーツク紋別事業所

2050年の 函館。

未来を、語ることはできますか。

人間と区別のつかないロボット。目的地を言うだけで連れて行ってくれる自動車。3次元の立体映像を空中に浮かばせる機器。モノの変化のスピードは速いけれど、SFなんかを手がかりに、モノの未来を語ることはできるかもしれない。

でも、地域の未来を語ることはできるだろうか。人口減と高齢化。外国人の増加。気候変動。そんな現実にはぶつかっている地域がどんな道を進むのか、見通すのはむずかしい。

でも、私たちは、おそらく何十年後もどこかの地域に立ち、地域で暮らしているのだと思う。いろんな知恵と力を集めて地域の未来を思い描き、どうであってほしいかを考える。そこから、今取り組むべきことが見えてくるだろう。

むずかしいのは承知の上。2050年の函館を、道南のさまざまな分野で活躍する人たちの話を手がかりに考えてみた。

「域内循環」が未来の街に活気生む

永澤大樹／函館商工会議所中小企業相談所長

2050年の函館経済を考える上で重要な年が過去にある。青函連絡船が廃止され青函トンネルが開通し、記念博覧会が開催された1988年だ。人や物、カネの流れが変わり、函館の転換点となった。そこから現在まで30年。この間に国内では人口が減って市場は縮小へ向かい、地方と大都市圏の格差が広がった。函館の経済はこれからどんな方向へ行くのか。函館商工会議所の永澤大樹さんに聞いた。

取り分を減らさない

例えばおそば屋さんが2軒あって、そのうち1店が閉店すると、残る1店は売り上げが2倍になるかと言えば必ずしもそうはなりません。そこからまた違う流れができて、売り上げは

複雑に変化します。未来予測は簡単ではない。人口減少や市場の縮小をただ嘆くのではなく、しっかりと現実を見極めることで、売り上げや利益を維持、発展させてゆくことは無理なことではありません。

函館にとって1988年は未来に向けての可能性が凝縮された年でした。しかし、総務省の調査データで当時と今とを比べると、函館では納税義務者1人あたりの実質所得が減っています。産業構造の変化など、さまざまな要因によるものですが、今後も函館が活力を保つていくためには、1人あたりの「取り分」を減らさないまじづくりが必要になります。

総務省がまとめた2017年の納税義務者1人あたりの全国

PROFILE

ながさわ・ひろき

1973年、函館生まれ。早稲田大学文学部卒。95年に函館商工会議所に入り、新幹線函館開業対策室長などを経て2016年から現職。



特集

2050年の
函館。

市区町村別平均所得額で、トップは東京都港区の1115万755円。3位は何と北海道の猿払村で813万7339円で、猿払村はホタテの増殖・放流に力を入れて漁業者が所得を伸ばし、「ホタテ御殿」がたくさんあります。都会でなくとも、地域資源を生かして豊かに暮らすことはできるのです。

函館市は276万7995円で、857位とほぼ中位です。

起業家やソーシャルベンチャーが生まれる一方で、自営業者は減っている。労働者は自分たちが働くことで生み出す付加価値をしっかりと考え、経営者は生み出した付加価値をどう分配するかを考えなくてはなりません。大阪商工会議所の創設者で初代会頭の五代友厚は「自ら儲けを生み出し、それを独り占めせず、他者に還元してこそ価値がある」(贈正五位勲四等五代友厚君伝)と説いています。

「自給率」の向上を

観光は函館の基幹産業であり、地域の外からお金を獲得する手段として有効です。同時に大切なのが、いかに地域内で材料などの自給率を上げるか。お金の「域内循環率」を上げることで、農漁業から製造業、サービス業、医療や福祉まで、さまざまな分野が活性化します。

函館にあるホテルに、東京からお客さんが来て泊まったとしましょう。そのホテルのオーナーが東京ならば、資材調達費や物件費などで「東京に戻っていくお金」が多くなる。一方、本社が函館にあれば、地元の業者に仕事を依頼することも多くなり、地域で経済が循環することになります。経営者は目の前のコストカットを優先しがちですが、地域内での経済循環という観点では、地域社会の責任者でもあると言えます。

高齢者にもできる仕事とし

て、モミジなどの葉を和食の飾り用に出荷する徳島県上勝町の「葉っぱビジネス」は、お年寄りに生きがいをもたらし、また、けれど、そうして得られたお金の使い道が地元でない点が課題です。投資や消費意欲の乏しい人がため込むだけでは新しい産業も生まれません。バブル時代は市場に流れ込む資金の総量が多すぎたことが問題でしたが、消費の担い手が多かったので、経済の循環が街に活気を見せました。

価値観は変わる

時代は大きく変わりました。1988年にはスマホは存在しませんでした。今はスマホだけでなく、今までは実現できなかったことが実現できるようになりました。このまま2050年までに世の中全体が予想できないほどのスピードで変化してゆくはず。昔はいい車を買って、彼女を乗せてドライブしたいという若者の多い

ダイバーシティが函館の未来をつくる

古地順一郎／北海道教育大学函館校准教授

北海道教育大学函館校の古地順一郎さんは、「多様性の国」カナダで長年暮らした経験から、函館が目指すべき未来像を考える上でのキーワードは「ダイバーシティ(多様性)とイノベーション(革新)」だと提言する。

多様な人々が自己実現できる街にならなければ、生き残れないと思います。第3次産業が発展し、現代は「知識」が経済を動かす原動力になりました。知識をベースに、産業、福祉、医療、防災などさまざまな分野でイノベーションを起こせる地域こそが優位に立てます。そのイノベーションをもたらすのは多様な人々の活躍です。2050年の函館は、外国人、若者、高齢者、子ども、女性、障がい者、LGBTなど、多種多様な人々が豊

かに暮らすことができる街を目指すべきです。

地区(町内会)ごとにそれぞれの「らしさ」を打ち出して、自分たちの地区のアイデンティティーやビジョンをしっかりと持つことが第一。そして、高齢化が進んでいる地区と比較的若い世代が多い地区が防災協定を結び、繋がりを作るなどすれば、互いの地区が活性化します。一方で外国人が日本語を学ぶための支援を厚くし、彼らの母語を教える場も作るのです。思考方法や世界の見え方が、話す言語によって違うということをお互いが認識することにつながります。

ハッピーばかりじゃない

多様な人たちと生きて行くに

は、ものの見方や考え方を変えて行くプロセスが必要であり、そこにはコストもかかります。必ずしもハッピーなことばかりではなく、しんどいこともある。でも、そこから逃げられる時代ではないのです。日本では人々が同質化することで経済的に成功してきた。異質なものを受け入れたがらないのは、受け入れるためのコストを気にしているからです。しかし、ヨーロッパはそのコストをかけて発展してきました。

カナダでは「多文化主義」政策が取られ、多様性を国づくりを生かす取り組みが進められてきました。ただ、それが深化していくにつれて「自国の文化や価値観とは何か」がたびたび問い返され、異なる文化を持つ

時代でしたが、今の若者は「車は動けばいい」とこだわりません。将来、車は所有せずに「シェア」するものになるかもしれない。それぞれが自分の価値観を大切にしようになり、金銭的豊かさを求める人と、そうではない人に世の中は2極化してゆくでしょう。そうした人たちにどうアプローチして、価値を生み出せるかを考えなくてはなりません。

AI(人工知能)の活用も進むと思いますが、極端な例を出せば、人件費を削り人間を一切雇用せずAIだけに仕事させ、経営者が利益を総取りする社会は、給料を得て消費する人間もいなくなるので、その事業の売上を失うことにもなりかねません。2050年には、あらゆる産業の最前線で働く現場の人たちが苦しまない社会になってほしいと願っています。

人々の間で感情的なせめぎ合いが生まれたり、それぞれが干渉しあわないことで繋がりが薄くなったりするといった課題も出てきています。

いわばカナダの多文化主義は次のステップへ向かっているからこそ、新たな課題が生まれている状況なのですが、それに比べれば、日本社会はまだまだ遅れています。多様性の中で生きるには、それぞれの違いを認識して、自分と違う人を排除せず、共通のビジョンを持ち、議論や話し合いによって課題を解決していくことが必要です。「こうであるべき」「他はだめ」という考え方はなく、いろいろあって良いという感覚を持ちながら、共通のルールも作る必要

があるのです。

知的なタフさを

そうした社会で生きることが大変だからこそ、クールヘッド（冷静な頭脳）とウォームハート（温かい心情）を持って議論する力、考える力が必要で、さまざまな文化がぶつかりあえば摩擦も起きる。これを当然のことと受け止め、その上で前に進むためには何をするべきかを考えることが大切です。「郷に入れば郷に従え」といった表現もありますが、多様な社会では、このような一方的な価値観の押し付けは、中長期的に見ると建設的な解決策にはなりません。なぜここではそうしなければならぬのかを説明し、議論し、意見を出し合い、様々な考えを持っている人が少しずつ歩み合いながら合意形成をする力が大切になります。議論をする時には、知的なタフさがなければならぬ。そこには教育が必要。

感情的な議論ではなく、きちんと論理的に議論できるタフさがないとイノベーションは生まれえないし、新たな産業も生まれえないのです。自分を相対化して見ることや、学校だけでなく社会教育の中でも育まれる知的なタフさが、未来の社会では求められると思います。

言語も文化も異なるさまざまな人々が、互いを尊重しながら豊かに暮らす2050年の函館。そこへ向けて市民一人一人が今から街の理念や未来の姿を考え、社会に対してメッセージを発していくことが、函館の未来を切り開く原動力になるのだろうと思います。



PROFILE

こち・じゅんいちろう
モントリオール市役所、在カナダ日本大使館に勤務するなど約15年間カナダで過ごし、2014年に函館へ。現在は北海道教育大学函館校国際地域学科准教授。専門は地域研究・政治学・移民・多文化共生政策・カナダ・ケベック研究。函館・ハリファックス協会副会長。



特集

2050年の函館。

人をふつと幸せにする技術

塚田浩二／公立ほこだて未来大准教授

ユーモアあふれる科学研究などに贈られる「イグ・ノーベル賞」。聞いただけで思わず吹き出してしまうユニークな研究が目白押しこの賞を、2012年に受けたのが公立ほこだて未来大の塚田浩二さん。マイクとスピーカーを使って、おしゃべりな人を邪魔する装置「スピーチ・ジャマー」の開発者だ。

この装置はマイクとスピーカーが一体になっている。うるさくしゃべる人に装置を向けると、マイクで拾った声が約0.2秒後、スピーカーから流れる。自分の声を少し遅れて聞かされると、うまく話せなくなる人間の習性を応用して、しゃべりにくくするカラクリだ。「うるさい」と止めるのではなく、本人にちょっとした違和感

を覚えさせてだまらせるのがポイント。しゃべるのが遅くなるだけの人、まったく効かない人もいます。人によって差が出るのはなぜなのか。そこにはまだ踏み込めていないんです

日常を

「さりげなく」支える

専門はコンピューターと人間の関係や、人間に役立つコンピューターの活用法の研究。テーマの一つは、センサーやコンピューターを駆使して、日常生活を「さりげなく支える」新しいデバイスやサービスを作ることだ。この「さりげない」というのが重要なキーワードだという。「使う本人が気づかないくらいが理想と考えています」と塚田さん。スピーチ・ジャ

マーを向けられた人が感じる違和感も、さりげなさにつながる部分だろう。

生活の中に新しく入ってくるものは、導入の過程でいざこざが生じることがある。例えば「食事しながらスマホを使うこと」の是非などがそうだ。だが、新しいものを誰もが受け入れやすくするよう、その機能や使用際のシステムに工夫をこらすことは可能だと塚田さんは言う。

塚田さんはこれまで、自身や学生の興味を出発点として「フックに洋服を掛けるだけで洋服を自動的に撮影、分類してデータベースを作ってくれるタンス」「洗濯物が乾いたら電子メールで教えてくれるハンガー」「日光を探して動き回る植木鉢」「食べ物の種類によっ

てさまざまな音を奏でるフォーク」などを作ってきた。

「機能がうれしただけでなく、ぬいぐるみかモフモフしていることと同じように、『言葉にできない幸せ』を装置が持っていること。人をふつと幸せにする技術は大切だと思います」

函館の暮らしを楽しく

こうした発想から、未来の函館の暮らしをもっと楽しくすることはできるかもしれない。

函館は昨年、観測史上最高の累積降雪量510cmを記録する大雪だった。そこで塚田さんは昨年、つらい雪かきを支援するシステムを考案した。スコップの先にセンサーがついていて、雪かきの仕方によって、手元のスピーカーから異なる音が流れ

2050年の
函館。

る。いわば「面倒くさいな」と思うことを、音によってポジティブな体験に変えることができるシステムだ。「これに加えて『ポケモンGO』のような仕組みをつくり、困っているお年寄りの家で雪かきをすればポイントがゲットできるなど、ゲーム性を持たせることもできるはず」

通勤や買い物など日常の足も、自動車より手軽な乗り物に変われば楽しくなるだろう。「中国ではけっこう電動一輪車が走っています。日本では法規制が厳しくてハードルがありますが、これに内蔵されたコンピュータを積雪地でも滑りながら走れるよう制御できれば、函館でも利用できて面白いかもしれません」

技術革新のスピードが速い今、これから30年の間に、私たちの周りでは考えられないほど大きな変化が起きるだろう。コンピュータやスマホも、眼鏡

型のもの、自然の素材を使ったものなど、バラエティーに富んだ形や素材になるかもしれない。大阪大学では、窓やお風呂場の鏡にできる結露を人為的に制御して、ディスプレイ代わりにするシステムを作っているという。「コンピュータにも個性が出るはず。『幸せ』と感ずるためには、使う人が好きなものを選ぶようになるのが大事なんです」

PROFILE

つかた・こうじ

1977年、横浜市出身。慶応義塾大学大学院政策・メディア研究科博士課程修了。産業技術総合研究所研究員、お茶の水女子大特任助教授を経て、2013年から公立はこだて未来大情報アーキテクチャ学科准教授。



市民挙げて「おもてなし」

奥平 理／函館工業高等専門学校教授

1988年の青函トンネル開業を機に、国内有数の「観光都市」に飛躍した函館市。2016年には北海道新幹線が開業して観光客数は大きく伸びたが、勢いには既に陰りが見え、新たな取り組みが求められる状況だ。人口減少も著しい中、2050年に向けて函館観光は何を目指すべきか。それ以外にどんな取り組みが必要か。函館工業高等専門学校の奥平理さんに聞いた。

人口構成から
見えるもの

函館市では年平均35000人の人口が減っています。1980年の人口構成は若者の多い「釣鐘型」でしたが、2045年には高齢者が多い「つぼ型」になると予想されています。

1980～2010年の年齢階級別の純移動数の推移を見ると、顕著なのが15～24歳人口の市外への流出です。大学進学や就職のために函館から出て、戻らない人が多いのです。一方で60歳代以上では移動数が微増している。退職後、函館に移住する人たちが多いです。

生産年齢人口の少なさは、函館市の成長にも関わる大きな問題です。さらに、就業人口が第3次産業に偏っているという構造のひずみがある。2015年の統計によると、1次産業の従業者は就業人口の2.8%、2次産業は11.3%。一方で3次産業は85.8%と8割を超えています。地域活性化の対策の一つは大企業の誘致でしょう。IT産業もいいが、雇用できる人数が少

ない。製造業を受け入れることです。パート従業員主体ではなく、きちんと人材育成できる企業であることが大事です。二つ

めは、経済学部や経営学部のように直接、地域活性化に貢献できる大学の学部を増やすこと。三つめは、さまざまな言語を話す外国人を受け入れる新しい工場の建設です。開港都市・函館らしいユニークでクリエイティブな工場が望ましい。四つめは、大真面目に言いますが、「官製」のお見合いパーティーの実施です。行政主催で婚活パーティー

を本気で開き、男女のマッチングをきちんとすれば人口構造を変えることができます。観光振興で交流人口は増えますが、定住人口を増やさない地域は生き残れません。

2050年に向けて
インフラ整備

観光客や定住者を増やすには、交通インフラの整備が必要です。まずは市電の路線拡大。函館空港や美原・石川地区、あるいは新函館北斗駅までつなぐのです。海外からの個人旅行はますます増えるでしょうから、移動手段としての市電は重要です。函館空港でも、欠航の少なさで知られる青森空港のような冬場の除雪体制の充実が望まれます。

一方、JR北海道では現在、車内販売がほとんど行われておらず、自動販売機も設置されていません。電子化の進む時代に、函館駅ですら交通系カードのスイカやキタカに対応していな

2050年の函館。

い。改善が必要です。
 2050年を見通せば、青函連絡船を復活させ、さらに青函トンネル内に仕切りをして片側は車を走らせ、新しい交通ルートをつくってはどうか。東京から函館まで4時間かかっている新幹線のスピードも圧倒的に上げて、競争力を高めることが重要です。

時代ではありません。観光客や外国人を見ると逃げるような函館人は時代遅れです。困っている人を見たら声をかけ、一人一人が2050年の観光に向かって「おもてなし」をし続けること。そうすれば、函館観光に未来はあります。既存の観光資源だけに頼らず、インフラを整備すれば人も住む。人が住めば案内人も増えるし、おもてなしも活発になる。「地元をほめる函館人」が函館の街を案内するところ、これからの観光スタイルです。



これからは東南アジアではなく、欧米にも情報を発信することが大切です。世界を相手に、観光客誘致を進めることが函館の生き残り戦略です。津軽海峡をはさんだ青森との広域連携も大切にし、青森ねぶた祭りと函館まつりの開催時期をずらして周遊しやすしたり、クリスマスファンタジーの競演をしたり。移動のアクセスが更に良くなれば、東北や北海道各地とタイアップが容易になります。

地元をほめる函館人

観光業者だけが観光に関わる

PROFILE

おくだいら・おさむ
 1965年生まれ。函館市出身。広島大学大学院文学研究科博士課程前期修了。95年から函館工業高等専門学校で教え、2016年から一般人文系教授。函館市観光アドバイザー会議の委員長など、外部委員も多数務める。



キーワードは「ゼロエミッション」

三浦汀介／北海道立工業技術センター長

エネルギーの利用の仕方、大きな変化が起きようとしている。歯止めのかからない地球温暖化は世界各国に待ったなしの対応を迫り、2017年に結ばれた温暖化対策の国際枠組み「パリ協定」は、温室効果ガスを2030年に13年比で26%、2050年には80%削減する目標を掲げる。この函館で、私たちはどのように対応してゆけばいいのか。北海道立工業技術センター長の三浦汀介さんに聞いた。

函館夜景が変わる？

パリ協定が掲げる温室効果ガスの削減目標は、経済を成り立たせながら持続可能な社会を目指す野心的な数値です。対応が進む中で、温室効果ガスを出す

イカ釣りの漁火も環境への配慮を余儀なくされるでしょう。技術革新が進めば、日中に漁に出ることが主流となるかもしれません。函館の観光資源である夜景も形を変えてゆくでしょう。こうした状況下で、地域が自ら

エネルギーの転換に着手する必要があります。2050年に向けてのキーワードは「5つのD」(自由化、脱炭素化、分散化、デジタル化、人口減少)です。英語表記すると全て頭文字がDなのですが、特に脱炭素化は住民個々に対応が求められます。具体的には、電気自動車(EV)とスマートメーター(通信機能を持ち、効率的な電気の使い方が可能になる次世代電力量計)の活用です。気象などの条件によって発電量が左右されや

すい再生可能エネルギーの電気を各家庭で電気自動車に蓄電し、スマートメーターで需給バランスを保ちながら、多様な電源を利用する。災害時にも一定の電力供給を受けることができます。

マルチプルな人材を

人材の面でも、今後は「多様さ」が求められます。一つではなく複数の専門性を持った人材を、柔軟で小回りの利く組織が支援するのです。水産と建築、農業と広告、林業と観光などさまざまな分野の人材や組織が連携することが必要です。函館の

要員だけではなく、高度な知識や教養を持って水産業の振興に関わる人を育てる必要がある。

既存のキャンパス・コンソーシアム函館や、函館国際水産・海洋都市推進機構などの組織をうまく使って、「マルチタスク型人間」を育てることが重要です。都会との格差をなくしながらコンバクトにまとまって動けるならば、地方の優位性を活かせます。そのために、地域の大学は学生だけでなく社会人の生涯教育にもっと力を入れなければなりません。

北海道の産業は、国策によって大きく変化してきました。北洋漁業や造船業、青函連絡船の全盛期である昭和初期まで、函館は東京より北で最大の都市でした。今こそ、産業を支えてきた海を活用し、自分たちの意思で経済を活性化していく必要があります。函館ならば豊富な資

2050年の函館。

源を活用して、地域経済により貢献できる水産業を営むことができます。

資源をうまく活用すること、毎年一定量の漁獲を見込める高度な資源利用のモデルを形成できるはずです。2050年には、エコノミー（経済）、エコロジー（生態系保全）、エシックス（倫理）の三つが産業分野で重要になるでしょう。エコノミーでは効率化、合理化の追求。エコロジーでは環境負荷を最小限にすること。そしてエシックスでは、地域活動の維持存続に最適な経営を行うことです。

地球環境との共生へ

漁業も、獲るだけから養殖、そしてゼロエミッション（自然界への排出ゼロ）というように考え方が変わってきています。人間社会が持続するためには、地球環境と共生していくことが求められます。環境と共生しながら、地域資源の最大限の活用

を目指すのが「21世紀型水産業」です。すべての産業はゼロエミッションを実践し、そこからイノベーション（技術革新）を生むように変化してゆくでしょう。2050年は「ゼロエミッション」がキーワードになります。



ゼロエミッションと新しい水産科学
三浦汀介・著
北海道大学図書刊行会

PROFILE

みうら・ていすけ

1945年生まれ。静岡県三島市出身。北大水産学部卒。北大水産学部教授、同大学院水産科学研究院副院長を経て、2009年から道立工業技術センター長、函館地域産業振興財団副理事長。専門は漁業生産システム学。



みなさんにお訊きました。

「どうなっている？30年後の函館」

QUESTIONNAIRE

●函館道南の小中学校はさらに減少するだろうが、私立中学高等学校は、がんばっていると思う。ラ・サール、遺愛、白百合、田舎暮らしに憧れる子どもたちが、遠方から入学してくると思う。未来大学と函館短期大学と総合病院と函館空港と函館市電は残っているほしい。

外国人の割合は今より増えている、農林水産業や医療保育などの現場に従事していると思う。ニセコ小樽札幌との距離が近くなっている、芸術やスポーツなどの交流はむしろ増えていると思う。若者の流出はやむを得ない状況だと思ふ。函館を離れても郷土愛を忘れず、遠くから函館を思い続けてほしい。そしてそれぞれの地で、函館の良さを伝えてほしい。

函館市役所は建て替えになっ

ると思う。できれば現在地ではなく海抜10メートル以上の安全な場所に建てて、防災観光情報交流の役割を担う多目的な施設となっほしい。

函館朝市はモーニングマーケットとして、地域住民から観光客まで幅広く開かれた場所であってほしい。豪華客船が寄港するたび賑わってほしい。函館駅前の活性化対策がうまくいって欲しい。

ロープウェイと五稜郭タワーのアクセスはさらに良くなり、観光しやすさ、バリアフリー化、多言語化がすすんでいれば嬉しい。公会堂、相馬邸、旧イギリス領事館などの歴史的建造物や、函館山大沼などの自然が大切に保存されてほしい。港まわりのパレードが続いてほしい。

（山本椋子・40代）

●基本的には札幌圏との北海道新幹線を介した融合が進み、札幌圏のベッドタウン化などが起きているかもしれない。

仮に2050年までに青函トンネルがもう一本掘られていけば、貨物との共用走行が無くなり、本州との行き来の制約も今以上に無くなり、東京までの所要時間も3時間台後半になっていけると、函館への行き来が増えるエリアも増えると考えられ、観光入込的にも今以上にはなっているものと推定される。

（X・103・30代）

●人口は…増えないとは思いますが、せめて減り方が緩やかになっほしいなと。

あと、除雪のことなど、諸々がいい方向に進み、今よりも暮らしやすくなっていればいいなあ…というのがほのかな希望です。

（A・O・40代）

●インタナショナルスクールが出来るといいな。

●馬ですが道産子じゃない・30代

●どんなに衰退してもどこかで踏みとまるとは思うが、正直に言って今の繁栄があるとは限らない気がする。北海道新幹線も現状は一切、函館市を通過していない。今からでも遅くはない。スィッチバックになっても良いから、函館がせめて五稜郭まで引き込むことは出来ないのか。東京から来れば大した差では無いかも知れないが、札幌まで開業した後、

函館〜札幌相互間の旅客需要というのはそれなりにある筈なのだが、今の新函館北斗駅がその需要を満足する場所にあるとは、到底思えないし、今後変わることも考えにくい。また観光面から見ても、ゆくゆくは厳しい闘いを強いられるのではないか。いっそのこと、新函館北斗駅のネーミングライツ（命名権）をラッキープールにでも引き受けてもらいたい、駅そのものをテーマパーク化しつつ運営してもらおう位の勢いがあるのではないかと、無いとダメだとも思う。

JR九州の水戸岡デザインのような豪華なアクセス列車が函館にも欲しいと財界の偉い人が言っていたが、二番煎じではなく函館オリジナルを追求するべきだろう。新函館北斗駅を軸にラッキープールやハセガワストアなどの、全国に名の知れた地域の店舗が進出し大手を振って営業しているようになる頼もしい。そんな32年後を期待しつつ。SLに乗りたいたから新山口に行くという人が居る。ラッキープールに行きたいから新函館北斗駅に行く、という人が出てき

みなどを、世界に先駆けて推し進めている街になってほしい。そうすることで、人口減少の中でも、住みやすい街、訪れてみたい街であり続け、老若男女共存する人との交流が絶えない地域となる。
(anno・40代)

●現状のままの市政では：2050年には人口は5万人を切り、平均年齢80歳を越える超々高齢化社会の街となる。相変わらず仕事は無いので、若年層ばかりでなく30〜50代の青年層や中年層まで街を去り、老人と外国人観光客しかない街になる。子供もいなくなり、学校も市内に小学校で2〜3校にまで統合され、活気も失われる。大型スーパーや百貨店も無くなり、買い物難民に溢れる…等、函館は市ではなく、函館「町」に転落するし、衰退しきった街となる。
「どうあって欲しいか？」

2050年とは言わず、来年には有名大企業の工場が良いから誘致して欲しい。宇宙航空産業や自動車産業の分野ならば、ある程度の成長は今後も見込まれる事で、

ても良いし、相手が東京なら出てくるだろう。そんな馬鹿な、と思われるかも知れないが、動かない事には何も始まらない。受け身で何かが入ってくることだけ待ち受けていても、現状維持はしても発展は無いだろう。魅力度第一位の街の誇りとして、能動的な施策のみならず、実力行使に期待したい。
(元市民K・40代)

●もっと若い人が楽しむことができる、そして国内外からのたくさんの観光客が来る魅力ある街になってほしい。
(K・K・40代)

●空家や空き店舗、空き地が無くなって、夜景がもっと綺麗に見えるようになってほしいです。
(雪・40代)

●住み良い明るく穏やかな街！
(M・K・20代)

●人口が減って、観光客だけの街になっている。
(ミスノ・30代)

誘致には適してののではないかと思う。また再度イオンモールのような大規模ショッピングモールの誘致も検討して欲しい。まずは人を呼び施設が無いと、今後は街も廃れていく一方。「駅前の○○商店を助ける為にイオンは函館に来るな」という時代は、昭和の時代で終わった。これからはイオン等の企業との協調共存が必要不可欠だと思う。
(A・40代)

●小中学校の統合が進み、函館市内には小中一貫校の3か所となり、児童・生徒は全員スクールバスで通っている。また、スクールバスは、空いている時間に、お年寄りの買い物循環バスとして利用され、函館市内の重要な交通手段となる。
(やーこん・40代)

●函館市内の各家庭にホームドクターにつながるタブレット端末があり、24時間ドクターにアクセスできて、いつでも処方してもらえる。処方された薬は宅配システ

●人口は20万から25万人程度になっていと思う。観光地としての魅力は変わらないかもしれないが、居住地としての魅力が上がっている可能性は低く、老人の多い街になっているんじゃないだろうか。
(きつね・40代)

●今年、東北から初めて憧れの北海道に旅しました。函館は親しみがあって、景色も素敵で広々として大好きです。ただ、人口が減少傾向にあると知り、その点が心配。私が函館に望むのは、このままいて欲しいということですね。変に発展せず、劣化もせず、観光客にとってもここかほっとする、第2のふるさとであってほしいです。私自身、函館にはふるさとを感じています！
(MINAKO・50代)

●「いろんな年代の人が、自分らしく、あずましく暮らしている。」
「時の流れが創り出す、唯一無二の個性を持つ街を、成熟した旅人が訪れる」「身近なところで作る、ムによって1時間以内に届けられる。
(みっち・30代)

●車の自動運転が進み、普通車の運転免許は不要になる。函館市では車の所有権を持たない「シェアカータウン」宣言をし、シェアカーを公共交通機関のようにお金を払ってシェアすることができるようになる。
(カー吉・50代)

●函館市内の人口30%が外国人になり、スマートフォンに向かって話す、相手の必要な言語に変換されて、音声ができる。翻訳、通訳の仕事がいらなくなる。
(未来大好き・40代)

●ZOZOタウンが、函館に本社を移転し、函館発の宇宙旅行が当たり前になり、ネットでチケットを買える時代になる。また、函館市の定住化政策に、火星に移住する人の支援も行う広域支援が行われるようになる。
(ジュリー・20代)

採る、獲る食材を、しみじみシンブルに食べる。』
(m・50代)

●人口は確実に減ると思います。幸福度は今より高くなっているが、幸福度は努力したいです。しい！なる様に努力したいです。
(ドンファン・40代)

●残っていてほしい。
(V・30代)

●人口が少なくなって寂しい街になってると思います。
(ヤンジャ・50代)

●まだまだ寂れていると思います。
(hannu・40代)

●歴史と未来の融合した街であって欲しいと思います。未来大学や北大水産学部を中心とした産学一体での、研究や技術開発によって歴史的建造物や環境を守る取り組み

●テクノロジーが進歩して、みんなで会話している中で、ウェアラブルデバイスを利用して、二人でチャットすることができるようになる。
(ジミー・60代)

●忙しい人が増えて、サブプリメントだけで生活する人が多くなる。函館でサブプリメント専門のレストランが人気になり、ミシュランの三つ星の称号が与えられて全国からファンが訪れる。
(えりちゃん・50代)

●ペーパーレス化が進んで、地元の新聞や雑誌、@もなくなり、印刷業者や、出版関係者などの分野で、失業する人たちが増える。
(小太郎・60代)

●函館では生まれた時から、体にチップを埋められて、全ての行動は自治体が把握できることになる。犯罪の検挙率が極端に安全な国、日本、函館となる。
(元氣・20代)

●温暖化が進み、函館港に真珠の

「ホストファミリー」について知っていたただくための3つのイベント。

家の中で異文化を体験すること。違う国で生まれ育った人と、家族と一緒に生活すること。その未知の体験の中では、不安や驚き、とまどいがあります。そのすべての出来事を味わったその時から、本当の国際交流が始まります。2019年、HIFでは“ホストファミリー”を知って頂くためのイベントを開催します。ぜひお気軽にご参加下さい！

※スケジュールや内容は変更になる可能性もありますので、詳しくはお問い合わせ下さい。

【北海道国際交流センター 海外フェスタ2019】

内容／ホストファミリー相談、子ども向けミニ英会話教室、世界の民族衣装体験、留学相談、クイズラリーetc…

【2月の開催】

日時／2月17日(日)11:00-17:00

場所／ポールスター(函館市港町1-2-1)

【3月の開催】

日時／3月16日(土)10:00-18:00

場所／函館葛屋書店(函館市石川町85-1)



【ホストファミリートーク】

内容／ホストファミリー経験者を囲んだ座談会。毎日の食事、コミュニケーション、実際にあった問題への対処法etc…

日時／2月24日(日)10:30-11:30

3月23日(土)10:30-11:30

4月20日(土)10:30-11:30

場所／北海道国際交流センター(函館市元町14-1)



【5家庭限定！お試しホームステイ】

初めてホストファミリーをされるご家庭限定のホームステイ体験。市内の大学に通う留学生がご自宅に滞在します。

期間／3月30日(土)～31日(日)(1泊2日)



(一財)北海道国際交流センター(HIF)
040-0054 函館市元町14-1
TEL. 0138-22-0770 FAX. 0138-22-0660
E-mail: info@hif.or.jp
<http://www.hif.or.jp>

養殖ができるようになり、北洋漁業以来の大型産業が生まれて、地域の人口が右肩上がりが増えていく。

(パール田崎・40代)

●今よりも人口は少なくなっていると思うけど、函館を盛り上げたワカモノがリターンして起業したり、外国人もたくさん働けるような街になってほしい。緑の島からロケットを打ち上げてほしい！

(匿名・30代)

●面白い話題が多い街になってほしいなあと思います。いま部活や勉強を頑張っている10代、20代の学生さんたちが大きな夢を掴んで、第2のGLAYのようになっていたら嬉しいですね。こんな人がのびのびと育つ土壌がある街なんだぞー！って自慢できる気がします。教育や福祉に力を入れていけば、実現可能なのでは？あと、最近函館はIT企業の誘致に積極的だと耳にしたので、先端技術が浸透した街になっているといいなあ。マイナンバーカードに

電子マネー機能搭載されたりしませんかね？

(AS・30代)

●ドローンが大型化してタクシーが空を飛ぶようになっていて！元町から湯川まで5分で行けるようになっていて嬉しい。きつとその頃にはまた近郊の町と合併しているし高齢化も進んでいるだろうから、移動手段の見直しは必要なのでは？いつまでも車社会というわけにはいかないでしょう！

(みいちゃん・40代)

●農業漁業が生産から配送まで完全自動化・無人化の時代になっているというのも、もう近い未来なのかなどドラマを見ていて思いました。そうなったら、広い土地や豊富な水産資源は近郊の町に任せて、函館は機械生産の街になるのかもしれないですね。漁火や夜の夜景ではなく、工場夜景が名物になるのかも？

(NACS大好き)

●函館〜大間、森〜室蘭をつなぐ

橋ができて、物も人ももっと移動できるようになり、観光や生活の場が広がっているのでは。車の所持率も今以上に上がっているかもしれません。そしたら交通事故もきつと増えるから、医療福祉にかかるお金が増えるわけで、てことばきつと市民の税負担も増えますね……でも森・室蘭の橋はほんとにできてほしい！函館の話題じゃなくなってしまういすみません……

(きいさん)

●函館山が世界遺産になっている。

(かず・20代)

●函館市から市民全員に操作の不要なロボット型タブレットが支給され、話しかけるだけで質問に答えてくれたり、買い物、緊急時のサポートをしてくれる。

(雪だるま・20代)

●五稜郭タワーが巨大ロボットになる。函館の夜景は観光客を乗せた五稜郭ロボが函館を一周して楽

しむものになっていて、函館山は夜景ではなくロボを眺めるための展望台になっている

(moochi・20代)

●市民主体のイベントがもっと大規模に、数多くなっているといいですね。野外劇やクリスマスファンタジー、国際民族芸術祭など、市民の努力で根付き発展してきたイベントがあるので、もっと市民を巻き込んで、盛大に、年中にぎやかにお祭りをやっている町になればいいと思います。

(ろま・40代)

●幼稚園・小学校・中学校・市民のフリースペースが一体になった施設が市内の色々な場所にできていく。受験がなくなり、学ぶ場を選べる！西部地区に大学ができて、世界中からの留学生・若者が増えて賑やかになってほしい。社会人も大学で学べるようになってほしい。すべての人が学べるように学費は無償になっていたら良い！

(お母さん・50代)

HIFでも2016年からスタートした『子ども食堂』。これまで、多くの子どもたちや保護者、地域の人に参加していただきました。この活動についてもっと多くの方に興味を持っていただくために、『広がれ、子ども食堂の輪！全国ツアー』というイベントが函館で開催されます。ぜひご参加ください。



【広がれ、子ども食堂の輪！全国ツアー in 道南はこだて】

日時／1月20日(日)14:30-17:00

場所／フォーポイントバイシュラトン函館(函館市若松町14-10)

第1部

スペシャル対談:「子ども食堂ネットワークとフードバンク」

湯浅 誠(法政大学教授/社会活動家) × 近藤 博子(気まぐれ八百屋だんだん店長)

第2部

公開パネルトーク

パネラー／鈴木辰徳(はこだて子ども食堂)

佐々木あゆみ(なまら食堂)

大野誠二(函館てらこや)

コメンテーター／湯浅 誠、近藤 博子

モデレーター／泉 花奈

(CAPスペシャリスト・みそソムリエ)

主催／一般財団法人 北海道国際交流センター

後援／北海道渡島総合振興局、函館市、
フードバンク道南協議会



(一財)北海道国際交流センター(HIF)
040-0054 函館市元町14-1
TEL. 0138-22-0770 FAX. 0138-22-0660
E-mail: info@hif.or.jp
<http://www.hif.or.jp>

「子ども食堂」の輪！全国ツアー、函館開催。

街に関する一考察



連載／第4回

長谷山裕一

将来の大函館市

かつて未来の象徴だった「鉄腕アトム」の名前を使って都市の価値観を分類した研究者がいる。「下流社会」や「ファスト風土」の名付け親でもある三浦展氏だ。氏は、超高層ビルや立体道路のある世界を「アトムの都市」、路地裏や銭湯が残る風景を「ジブリの都市」、アトムとジブリが混在し、映画ブレードランナーの舞台のように高層建築の足元に昔ながらの屋台が広がる世界を「パンクの都市」と分類した。アトムの未来にもなり切れない一方で、ジブリの風景も失われ始めている今、どのような将来が待ち構えているのか。

鉄腕アトムの連載が始まって6年後の1958年、函館開港百年記念展が新川小学校を会場に開催された。そこに展示されたのが「将来の大函館市」と称したジオラマだ。そこには、高度経済成長を進むなか、輝ける未来を志向した将来像が表現されていた。桔梗地区にはバリ凱旋門の放射状の都市を模した官庁街が、函館山裏の寒川地区にはリゾートホテルが、函館湾には海底水族館が、5千分の1の縮尺で精密に造られていた。

当時の函館市の人口は24万人。大規模建築は棒二森屋百貨店がある程度で初代の五稜郭タワーもまだ無い。その後、合併を繰り返して市域も3倍となり、人口も増加した。しかし、1980年をピークに人口は減少し、国の研究機関によると2020年には24万人に戻ると推計されている。一度は拡大した大函館市は縮小を続けている。



ほとんどが現実とはならなかったが、このジオラマを観た市民は、函館の将来について多くのことを想い、考えたのだらう。経済の論理だけで造られるアトムのな世界。古いというだけで壊されるジブリ的な世界。深く考えずに壊し、造られたモノのつげは後世まで残ってしまう。それはジオラマの世界とは違い、取返しがつかない。

「将来の大函館市」このジオラマは「函館開港150周年記念事業(2009年)」で、函館工業高等学校の協力を得て再展示された。

PROFILE

函館市生まれ。建設会社を退職後、地方公共団体に入社。まちづくりや市民活動支援、交通政策などに従事。



打つも果てるも

中川大介／人と水研究会

PROFILE
岩手県生まれ。新聞記者。カヌーや溪流での釣り好きが高じて人の暮らしと水とのかわりに興味をもち、仲間と「人と水研究会」をつくって、水辺歩きを続けている。

宮沢賢治が生涯3度目の北海道への旅をして、函館の土を踏んだのは1924年(大正13年)5月であった。ロシア革命を指導したレーニンが没し、中国では軍閥に抗して国民党と共産党の第1次国共合作がなり、アメリカでアジア系移民への反発が強まり排日移民法が成立した年である。

二つの世界大戦のはざままで揺れ動く世の中で、賢治はこの年生前唯一の詩集「春と修羅」を自费出版し、岩手県立花巻農学校の教師として函館に修学旅行の生徒たちをつれてきた。露領・北洋漁業の出漁基地としてさかえた函館の殷賑が、このとき書かれた「函館港春夜光景」に映

し出される。

地球照ある七日の月が、海峡の西にかかって、岬の黒い山々が雲をかぶった、ずめば、そのうら寒い螺鈿(らでん)の雲も、またおぞましく呼吸するそこに喜歌劇オルフェウス風の、赤い酒精を照明し、妖蠱(ようこ)奇怪な虹の汁をそいで、

春と夏とを交雑し
水と陸との市場をつくる

「函館港春夜光景」から抜粋(以下同)
地球照とは、月の暗部が地球から反射した太陽光に照らされてわずかに明るくなる現象。津軽海峡の西に妖しく半月傾く春

まるめるの句のそらに
あたらしい星雲を燃せ

「原体剣舞連(mental sketch modified)から抜粋(以下同)」

いたのは意外な思いがする。大正9年の函館市の人口が14万人あまりで全国9位であったとはつとに知られる事実だが、それほどまでに往事の函館の栄華は魅惑的であったのか。「グスコープドリの伝記」といった自己犠牲の精神が表出した童話より、かように生命の脈動にあふれた賢治の詩がわたしは好きだ。同じ東北・岩手の出身という出自がそこに投影しているように感じるのは、「春と修羅」に収められた「原体剣舞連(はらたいけんばいれん)」を読むたびに、心の奥底がうち震える気がするからである。

dah-dah-dah-dah-
dah-sko-dah-dah

こんや異装のげん月のした
鶏の黒尾を頭巾(づきん)にかざり
片刃の太刀をひらめかす
原体村の舞手(をどりこ) たちよ
(中略)
蛇紋山地に篝(かがり)をかかげ
ひのきの髪をうちゆすり

するどく細い異形の月の下、さきりきりと太刀をひらめかせ、賢治が「気圏の戦士」と呼ぶ踊り手が舞う。蛇紋岩帯のある岩手・北上山地の一角、原体村(現奥州市江刺区)に伝わる子どもたちの剣舞を、地質調査に訪れた賢治は宇宙のスケールでとらえたのだった。「dah-dah」は賢治お得意のオノマトペ(擬音語)。剣舞の囃子の土俗的なリズムである。

剣舞とは東北に広く伝承される「念仏踊り」に修験道の要素が加わったものだという。無念の死、無残な死を遂げた者の魂を鎮めるこの踊り手が、なぜ人を斬るための道具である太刀を手し、互いに刃をあわせて斬り結ぶのか。

躍動感あふれる詩を賢治はこ

夜、函館山麓で満開の桜花の下、繰り上げられるから騒ぎを賢治は活写するのである。
.....きたわいな
つじうらはつけがきたわいな
ラダルハコダテガスタルダイト、
ハコダテネムロインディコライト
マヲカヨコハマ船燈みどり、

ガスタルダイト(コールタール色のあかり?)は小樽―函館航路の、インディコライト(濃紺のあかり?)は函館―根室航路の船燈の色という。樺太・真岡―横浜の船燈は緑色か。この2年前に亡くした最愛の妹トシへの思慕を抱いて北海道から樺太へと傷心の旅をした前年の挽歌群とはことなり、この詩は孤

高の心象風景を語ることなく、アルコール臭ただよう下界の活気を浅草オペラのテノール歌手の名まで引いて描くのである。大都市函館の春夜の華やきは、生徒たちや賢治の心をさぞかし浮き立たせたのだろうか。

ひとつらなりのいのち

干ばつや冷害にあえぐ東北の農民の困苦と農村の疲弊。そして農民から質草をとり、質・古着商として裕福に暮らした生家の家業。二つの現実のはざまで悩み苦しみ、自らを「修羅」にたとえて「まことの言葉」を追い求め、痛ましいまでの自己犠牲の道を歩いた賢治が、こんな陽気な、突き抜けた詩を残して

1918年(大正7年)の函館港。船と雑多な人々が無数に行き交う活況は、賢治と生徒を驚かせたのだろうか(北海道新聞の紙面から)



う結ぶ。

太刀は稲妻萱穂(かやほ)のさやぎ
獅子の星座に散る火の雨の
消えてあとない天のがらはら
打つも果てるもひとつのいのち

hah-dah-dah-dah-
dah-sko-dah-dah

斬られる者も斬る者も、とど
のつまりは「ひとつのいのち」。
大気圏を突き抜けて、「天の
がはら」まで自在に行き来した
賢治の精神は、この「修羅の地
上」でせめぎあう幾つもの命を、
「ひとつならりのもの」として
大きくとらえた。二つの命が、
太刀を交えることよって一つ
につらなる。そうして死者の無
念や恨みも命の奔流に飲み込ま
れ、鎮められていくのであろう。

震える粒子

詩の中段には斬られて「果て
た者」が登場する。

むかし達谷(たつた)の悪路王(あ

くろわう)

まっくらくらの二里の洞(ほら)
わたるは夢と黒夜神(こくやしん)
首は刻まれ漬けられ

悪路王は8〜9世紀、征夷大
將軍の坂上田村麻呂と闘って敗
れた蝦夷(えみし)の首長、阿
弼流為(アテルイ)とも言われ
る人物である。中央の強大な権
力にあらがい、部族の誇りをか
けて戦った「まつるわぬ者」。
首をはねられたさいの慟哭は、
何世紀にもわたって「被征服地」
東北の野山の草木も水も震わせ
てきたのだらう。その情念を鎮
める剣舞の太刀のひらめきは、
岩手花巻で生まれ東北の野山を
歩き回った賢治の心を「共震」
させ、この詩を書かせたのでは
ないかと思う。

思えばわたしも 故郷・三陸
海岸の海辺の集落に伝わる神楽
の踊り手だった。剣舞とはこと
なるが、太刀を手に空色や紅色
のきれいなべべを着て家々を門

付けし、ひらりひらりと舞う子

どもの群れの一人であった。無
病息災、家内安全、豊漁豊作
祈りの意味は違っても、太鼓と
笛と鉦(かね)の囀子を聴けば、
剣舞を見た賢治さながらに心が

うち震える。たびたびの天津波
に襲われ、多くの命を失いなが
ら、三陸の人びとは海とともに
生きてきた(賢治は明治三陸大
津波の年に生まれ、昭和三陸大
津波の年に没した)。自然の猛
威のなかに消えていった魂を、
神楽の舞は鎮めているようにも
思う。剣舞のオノマトベに近い
リズムが、わたしたちの踊りの
なかにもあった。

東北の山川草木のなかに、微
細な粒子として生き続ける人々
の情念。その粒子が大気をどよ
めかす。無念も恨みも、残され
た者への思慕もあるだろう。

はるか天空から見れば、斬ら
れた者も、斬った者も「ひとつ
のいのち」。天翔る想像力でそ
う了解していながらも、賢治は

達観や諦観に居着くことなく、
斬られた者どものように矛盾に
満ちた「修羅」の世界でもがき
あがき、衆生の幸福を願いなが
ら生きた。

3度目の函館を訪れたとき、
賢治28歳。やがて花巻農学校の
職を辞し、37歳で没するまで、
自らの健康をも度外視して農民
のために献身した。修羅の道を
みずから選び、短い命の火を燃
やした賢治がつかの間、歓喜に
あふれた繚乱の巷に身を浸す時
間をここ函館で持ったことを、
うれしく思うのである。

【参考文献】「宮沢賢治全集1」(ちくま文
庫、1986年)／「新装版宮沢賢治論
1 人と芸術」(恩田逸夫著、原子朗・小
沢俊郎編、東京書籍、1991年)／「新
宮澤賢治語彙辞典」(原子朗著、東京書籍、
1999年)／「宮澤賢治に聞く」(井上
ひさし・こまつ座編、ネスコ、19
95年)／「宮沢賢治 科学と祈りのこ
ころ」(北海道立文学館、2016年)

昔の子ども、
今どきの子ども



第十二話

プログラミン格的思考

庄司証／函館圏フリースクールすまいる・代表

2020年度から、小学校で
「プログラミング教育」が必修
化するのだそうだ。初めて知っ
たとき、「プログラミング」はお
ろか、パソコンでさえ十分に扱
えない自分にとっては、まった
く未知の領域でどんなことをす
るのかわからなかった。

そういえば、パソコンを初め
て触った中学生の頃、学校のパ
ソコン室で遊んでいたのと思い
出した。画面上の風車か何かを
クルクル回してみたりしていた。
時の大臣は「パソコンを使っ
たことがない」などと発言して
いたが、同じように「全然わか
らない」という方は案外少なく
ないのではないかと思う。そん
なパソコンに触れる機会が少な
かった方々にとっては、「プログ

ラミング教育」と聞いて、キーボ
ードをカタカタと高速に打ち込
み、ロボットを動かすようなこ
とをイメージするかもしれない。
だから、少し不安になって、
子どもにどこかで習わせないと
いけない、と考える。実際に、
プログラミング教室がものすご
く盛況で、ロボット作りが人気
だという。確かに、函館市内に
もその手の塾や教室が増えてい
るように感じる。

しかし、実は、すでに子どもの
遊びの中に「プログラミング」はた
くさんある。例えば、switch な
どのゲーム機器でも学べるし、
ウェブ上にも無料の学習ソフト
がある。すでに自然と「プログラ
ミング」に触れる機会があるのだ。
また、文科省の想定する「プ

ログラミング教育」も「子供た
ちに、コンピュータに意図した
処理を行うよう指示することが
できるということを経験させな
がら、将来どのような職業に就
くとしても、時代を超えて普遍
的に求められる力としての「プ
ログラミング的思考」などを育
むこと」としている。

そもそも「プログラミング」
とは、「プログラミング言語」
を使ってプログラムを開発する
ことだが、大切なのは開発する
主体としての

自分である。
自分の意図し
たとおりによ
事動かすに
はどうしたら
いいのが最適
な手順を論理
的に考えてみ
る。それが「プ
ログラミング
的思考」とい
うことであ
り、それを育

むことが文科省のいう「プログ
ラミング教育」ということなの
だ。だから、プログラミングの
知識を身に付けることが目的と
なる授業にはならないだろう
し、試験も教科書さえもない。
まさに、昔のドラえもん「こ
んなこといいなできたらい
いな」のように、まずはいろいろ
思い描くこと。そして、それを
どう自分で作りだせるか考える
こと。その先には自分で叶えた
未来が待っているとしたら、そ
れもまた面白い。



PROFILE

七飯町出身。北海道教育大学大学院修了。在学中から「チーフキ
リスト教学園」の活動に参加し、2012年「函館圏フリースクール
すまいる」設立。不登校や若者の居場所支援などを行っている。

WU-BOOK

●ウー・ブックスの書棚から。

夏井俊介 / ウーブックス店主



函館出身の写真家、間瀬潜の写真集「トラピスチヌ修道院」の中の1シーンで、聖書の手入れをしている修道僧。

間瀬潜はライカの名手として知られ、東京でフリーのカメラマンとして活動するも1959年に亡くなってしまった。本書は1954年に2000部出版され、今となっては国内はもとより海外でも高値で売買されている評価の高い写真集である。

レッスンに影響をうけたであろう見事な構図と光の陰影、写真家と被写体の距離感が、修道院の厳かな生活と安らぎを一層際立たせているように思える。

トラピスチヌ修道院という、函館にありながら市民にとっては海外よりも遠い場所。写真そのものの良さに加え、その微妙な距離感も不思議に作用して、この本がつくられた60年以上の時間を超え、たしかなリアリティで語りかけてくる稀有な写真集である。



PROFILE

群馬県生まれ函館市育ち。夏井珈琲勤務の傍ら、古書販売や本に関わるさまざまなイベントを企画する WU-BOOK を運営。古今東西の素敵な本を発掘して紹介している。



監督 リチャード・リンクレイター
原作 ダリル・ボニックサン
出演 スティーヴ・カレル
ブライアン・クランストン
ローレンス・フィッシュバーン

「30年後の同窓会」

(2017年)

シネマで
コーヒーブレイク



米田哲平 / 函館港イルミネーション映画祭実行委員長

今回のテーマは「30年後の函館」。映画とこのテーマの整合性を取るのには、頭をかかえる。今年は何かと30年がキワードのようにある。平成元年が物事の発端だろう。
さて映画だが、30年後となると僕は生きているのだろうか。その前に親しい友人に会っておこう。30年後の彼らはどうしているだろうか。そこで紹介したいのがこ

の作品。30年ぶりに再会したオヤジたちの再生に向けたロードムービーの佳作。
本作は、妻に先立たれ、更に戦地で最愛の息子を失い悲しみに暮れるドク(ステイヴ・カレル)。彼は亡くなった息子を故郷に連れて帰る旅に、30年間音信不通だった戦友サル(ブライアン・クランストン)とミューラー(ローレンス・フィッシュバーン)を誘うところから物語は始まる。「人

PROFILE

滝川市出身。函館における数多くの文化事業や施設・イベントの企画運営に携わる。現在は(公財)函館市文化・スポーツ振興財団。

生の峠を越えた。「いや、まだまだこれからさ」という会話をするような年齢になった彼らの、ほろ苦くもどこか可笑しい旅路。アカデミー主演男優賞にノミネートされた経験を持つ実力派3人の演技のバランスが素晴らしい。特に70年代のアメリカ映画を愛する映画ファンには胸に迫るものがあるはず。因みに原題は「Last FLAG flying」。

KOMIYA'S CREATION DIARY

小宮伸二 / 美術家

11月23日、初雪。

「あ、すごい！ 林檎の匂いがする。匂いまでつけてるんだ！ わーっ！ こっちは洋梨の匂いがするし！」そう言われた。でもそんなコトはしてない。それは僕が毎週レッスンを教えている場でのきごと。ちょっと忙しくて自分の仕事(制作途中のオブジェ作品)を持ち込んでいた時に、生徒にそれらの匂いを嗅がれたのだ。いくら違うと説明しても「ぜえったいする！！お父さんにも嗅いでもらおう！」と、父親まで呼ばれてオオゴトになる。そしてであろうことかその父親までが「あ、コミヤさん、すごいね。匂いまでつけてるんだ。本当だ、林檎と洋梨の匂いだ。」と全面肯定してしまう。やはりいくら否定しても信じてくれない。繰り返し匂いなんかつけていない。うーん、これはあれか？ 彼らが純粋だからか？ それとも僕のオブジェがホンモノそっくりだからか？ (それほどでもない) 途方に暮れていると、2人から「もっとみんなに嗅がせて！ 絶対そう言うから！」という指令まで受けてしまった。
そして今、函館で開催されている「世界に一冊



本体とヘタは木に彩色、本文は紙、台座部分はコンクリートと鉄

だけの本・展」にてそれらは展示されている。(こいつら、実は本です)僕の中でこれは、心の汚れ度合いをはかるバロメーターと化している。(たぶん僕はこの親子のことが好きなのだ)気になってリサーチしているが、「ホントだ！ 香りがする！」とは、いまだに誰も言ってくれない。僕にもまだ匂いはしない。ん？ 今、ちょっとだけ…？

PROFILE

函館市出身。インスタレーションをおもな表現手段とした現代アーティスト作家。海外でもオーストリアを拠点とした東欧各地やアメリカで個展開催、シンポジウムなどにも数多く参加。

近藤さんちの
今日のお昼ごはん



近藤 緑 / フードスタイリスト

【野菜ゴロゴロ・ボルシチ】

見た目とは裏腹な中身に驚きつつもどんどん惹かれてしまう…そんな『ギャップ萌え』は対人関係のみに非ず、食べ物との出会いにもあります。20代の頃、お世話になっていた料理の先生が作ってくれたボルシチは、お皿の上にいびつな赤紫の大根(ビーツ)がまるごとゴロンと横たわる衝撃的な見た目。「さあさあ！」と促されながらサワークリームが溶けたクリームピンク色の液体を口に運んでみたら、見た目からは思いもなかった優しい味にびっくり仰天！ それ以来、生のビーツを見かけると、あの時の先生に倣って大胆にカットした野菜ゴロゴロのボルシチを作ります。今日は我が家の冬の定番、糠にしんとメークインのクリームグラタンに卵とパセリのバターライスも添えて。何事も見た目だけで判断せずに一歩踏み込んで知ってみるって大事ですね…



PROFILE

美大卒業後、フードスタイリストの道へ。女性誌、広告、等の経験を経て、32歳の時、故郷の乙部町へリターン。現在は函館市内を中心にイベント出店や料理教室などを行う。

うに壮大だった(はず)。いち早くたこやきを手にしたい私は、晩酌途中の千鳥足の祖父を連れだし、決死の覚悟を決めて大河を渡るのだが、着いてみるといつも長蛇の後。「グリーンベルトがなければもっと早く並べた」。待ち時間の長さを全く関係のないグリーンベルトのせいにして口をとがらせた。

グリーンベルトには「日露友好の碑」など函館の歴史を知らせるさまざまな碑が設置されていたり、遊具やベンチが設置されて公園のようにくつろげるところもある。「月光仮面」の銅像が建ち、イベントなども開かれる駅前、大門地区のグリーンプラザもグリーンベルトの一つだ。

今年もいよいよグリーンベルトの樹木が綿帽子をかぶり始め、冬仕様となった。吹雪の中でもどっしりと幹を構える姿は勇ましくもある。グリーンベルトの木々が函館の四季を教えてくれる。

PROFILE

函館市生まれ。地域情報紙記者。食への探求心が旺盛で、旅先で出会うソウルフードが楽しみ。最近は大沼湖畔のキャンプ場で大勢で囲む夕食が好き。



押野友美
ライター

ちゃや植木、えんどう豆、たこやきなどの屋台が軒を連ねる夜店が開かれていた。夕闇の中でほそぼそと電球を光らせている屋台を遠くから見つけるだけで心がそわそわした。目当ては毎回列ができる人気のたこやき屋。しかし、家からそこにたどり着くには幅広いグリーンベルトという「大河」が立ちはだかった。まだ小さな子どもにとって、グリーンベルトはガンジス川のよ



寒くないかい？ 毎日のように利用する函館市内の道路の中央にグリーンベルト(防火緑地帯)が設けられている。そこに植樹されているプラタナスは、春が来ると若葉をたずさえ、夏になると大きな緑の葉をのびのびと目いっぱいにまとう。そして、冬を迎える前にはのび茂った葉をばっさりと切り落とされる。葉を落とされてまもなくの樹木の姿は、それまで身にとっていたゴージャスな洋服を脱がされて丸裸にされたかのようで、つい心配してしまう。

グリーンベルトは、1934年(昭和9年)の函館大火後の復興の都市計画の中で整備された。函館市史には「その数15本、幅55メートル、総延長14キロになる緑地帯の登場である」と記されている。幾度の大火にあってきた函館。グリーンベルトは最大55メートルという広い幅をとっており、中央の分離帯には燃えにくい広葉樹などの樹木を植え、延焼を防ぐ防火帯としての役目を担う。

40年以上前、大縄町のグリーンベルトと平行する通りで、「5」と「0」の付く日になるとおも

店主の「函バスの後部座席で正義を叫ぶ」⑫

中村ひでのり / 本誌編集人

「シミュラリティ」という言葉をご存知だろうか。日本語では「技術的特異点」というらしい。人工知能が発達し、人間の知性を超え、生活に大きな変化が起こること、をいうそう。アメリカの偉い先生の予測だと、少なくとも2045年までには人間と人工知能の能力が逆転すること。そうなることこれまで人間にできなかった多くのことが機械によって代替されるそう。少子高齢化や労働人口の減少を考えた時、これが画期的な解決策として注目されているらしい。

AIの進化によってこの先「消えてしまう職業」と、生き残る職業、の予測を見ると、なるほどとなつげるものや、まさかこれがというものなど、いろいろあつておもしろい。「会計などの事務職」などが

減っていくだろうというのは想像がつくが、「銀行の融資担当」が必要なくなるとの予測は驚いた。つまり融資希望者の情報をポチッとするだけで、AIが「こいつに貸しても返さないぜ」とか「このぐらいだったら貸してやろうか」とか、返済能力を瞬時に判断していくのだ。でもそうなる

と、池井戸潤の小説に出てくるような「そこをなんとかお願いますよ」的な汗と涙の懇願など、入り込む余地はまるでもなくなるんだらうな。それとも、相手の体温の上昇や心拍数、血圧、話し方の抑揚などを総合的に分析し、「こいつは誠実そうだし、丈夫で働きそうだから、金利4・2%なら融資してやろうかな」なんて判断までAIができるようになったらして…。そういうことならば、たいしたものだ。

PROFILE

北斗市生まれ。本誌編集人の他、ピーバス函館の制作にも携わる。リヴス代表。



ナツメ...

さて、今後必要とされるであろう職種を見ると、「芸術関係・学問関係」や「スポーツ選手、タレント、ミュージシャンなどショービジネスを担う仕事」「介護福祉、接客業、医療などのホスピタリティ性が高い職種」…とあり、たとえば「文学者、哲学者、宗教家」などがあげられているのは当然といえば当然だろう。しかし、「お寺離れ」が叫ばれている昨今、僧侶の成り手も減り、やがてAIが搭載されたお坊さんロボット「ナムナム君」が、葬儀に読経や説教をしたり、戒名までつけたり…なんて時代がやってくるかもしれない。その場合、お布施はカード決済でいけるのだろうか。

もっと知りたい、世界の音楽。

ふくだたくま

一般社団法人ワールズ・ミート・ジャパン

「もつとあちこちで芸術祭をやればいいのに」という声を聞かたび、アウトリーチの宣伝ができていないなあと反省しています。アウトリーチとは、教育・保育施設や老人保健施設などを回る公演です。何らかの事情で元町公園に足を運べない方にも世界の音楽や踊りを楽しんでもらいたいと考え、1回目から続けて行っています。

アウトリーチは海外アーティストに評判がよく、みな顔をほころばせて、認定子ども園の子どもたちと踊ります。ある老人保健施設では、ロシア人のミュージシャンにそっくりなおじいさんが座っていたので、「俺たち遠い親戚じゃないか」とか言って記念撮影をしていました。「人生の大半は映画で学んだ」「私の血は音楽でできている」「みたいいなことを言うオトナがたくさんいます。遠い世界のおにいさん・おねえさんが、一緒に歌って踊ってくれた。こんなおぼるげな記憶が子どもたちに残ってくればと願っています。

そう考えると、かつて私も映画や演劇、コンサート、町内会の行事や教育委員会主催の研修会など、いろいろな経験をさせてもらいました。当時どれだけのオトナたちが、公の予算や自らの時間を割いて、子どもたちの面倒を見てくれたのか。今では頭の下がる思いです。

函館市の将来推計人口は2035年に約19万3千人。0から14歳の人口もガクッと減ります。悲観論者の私は悪い未来の予想しかしていませんが、せめて20年30年後を生きる彼ら・彼女らに、ぬくもりのある景色くらいは残したいと思います。



アウトリーチの様子。ここ数年はスロバキア、ハンガリー、ラデシユ、イスラエル、フィリピンやスリランカなどのアーティストが各施設を訪問しました。写真/グレートーン

PROFILE

根室市出身。「はこだて国際民俗芸術祭」の制作を担当。こちらも事務畑なので、音楽の知識より「安全管理」を優先させているとか。平和がー。

牡蠣とウイスキー

西野鷹志 / 文・写真

昔、東京・銀座7丁目にあった立飲みバー「クルール」。え！これってヨードチンキの匂い？まさに病院くさい。アイラ島のシングルモルト・ウイスキー、ラフロイグ。バーテンドーの神様といわれた古川緑郎さんのおすすめで出会った強烈な初体験であった。さらに、常盤新平『スコッチ街道』を読んで、スコットランドの島で飲むべしと心に決めた。20年ほどまえのことになる。

アイラ島のシングルモルトを味わって惚れこみ、日本で酒を造ろうとロマンをいだいたひとりの男がいる。樋田恵一。食品原材料を輸入す

る小さな商社の二代目。アイラと同じような風土を日本中探し求めてたどり着いたのが、北海道の厚岸であった。冷涼で海の霧がでる気候、ピート（泥炭）、清い水と三拍子そろっている。しかも、うまい牡蠣もある。

晩秋、厚岸の短い旅は、牡蠣とウイスキーで一日が暮れた。これを手助けしてくれたのが、創業125年あまりのホテルを駅前で営む五味ホテルの五味尚紀さんであった。ホテルのバーで厚岸蒸溜所が生み出したばかりの、なかなか手に入らないニューボーン第1弾、第2弾をまだまだ粗削りだが、おいに楽しんだ。厚岸ウイスキーへの五味さんの熱のこもった語りとともに。

昔、はるばる離島アイラに渡ろうと思ったのは、密かな思いがあった。磯の香りの酒を生み出す風土にじかにふれたい。さらに、島の生牡蠣にアイラモルトの女王と言われるポウモアを垂らしてあじわう。これが、オイスターのポウモアがけ。これほどの贅沢があるのか、と。

今回の旅のハイライト。道の駅コンキリエで厚岸産の丸く小粒な生牡蠣・カキえもんにポウモアを垂らした。磯の香りがするポウモアと牡蠣の塩味・旨味がみごとにひとつとなり、今に生きる幸せを思う。アイラに行けなかったりベンジを果たしたのだ。

このつぎは、やはり厚岸で、3年熟成されたウイスキー「厚岸」を生牡蠣に教滴たらしてあじわいたい。



湿原のなかの厚岸蒸溜所 2018



PROFILE

西野鷹志(にし・たかし) 東京生まれ、函館育ち。タウン誌・街で「ライカは行く」を17年間連載、2012年・147回で終えた。好きなもの—フランスパンの皮、ブルゴーニュワイン、ライカM6。

「お客様と信頼の絆で結ばれて115年」



回転寿司 函館 まるかつ水産 本店
函館市豊川町12-10
TEL 0138-22-9696

函館ベイエリアへ 行こう。

旅の楽しみといえばその土地の名所巡りと、その土地ならではの食事やショッピングを楽しむ事。函館ベイエリアには心に残る食事やお買い物を楽しめるスポットがたくさんあります。

 株式会社 高木組

本社／函館市東雲町19番13号 0138-22-1195(代)
札幌支店／札幌市中央区大通西14丁目1番地13 北日本南大通ビル2階 011-206-4516(代)

<http://www.takagigumi.jp>





五稜星の夢イルミネーション(12/1~2/28 毎日点灯。)

ペリー来航によって動き出した日本の新時代。開港場となった函館に徳川幕府が築いた我が国最初の西洋式城郭・五稜郭は、幕府の最後の輝きを象徴するとともに、サムライたちの希望の星でもありました。以来、百五十余年、今も静かに函館の四季の中で輝き続けています。北の大地に刻まれた巨大な星、五稜郭と函館の歴史の移り変わりを展望台で実感してみませんか。



雪化粧の五稜郭



桜花の五稜郭



新緑の五稜郭

五稜郭歴史
ガイドツアー
毎日実施中

展望料金に200円追加で、エレベータースタッフが、展望台にて五稜郭や箱館戦争についてご案内する約30分の歴史ガイドツアーです。毎日9時～17時(冬季は10時～16時)の毎時00分の実施中です。☆詳しくはお問合せください☆

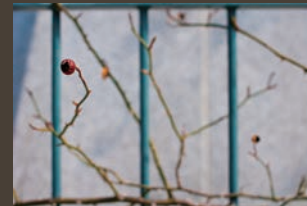
※1回20名様まで。(当日以外のご予約も可能です)



最新情報は、
五稜郭タワー公式サイトから。
www.goryokaku-tower.co.jp



函館市五稜郭町43-9 TEL0138-51-4785



季刊 [アット・エイチ]
@h

WINTER 2019

●発行人

池田 誠 (HIF)

●編集人

中村ひでのり

●編集スタッフ

齊藤美悠
趙 喜蓮
笹木明日香

●デザイン

中村事務所

●撮影

saeru
田中樹里

●イラストレーション

国立朋佳(表紙・目次)
H.Nakamura(本文)

●サポーター会員(敬称略)

稲泉省 / 鈴木詔次 / 前岡一郎
松本百合 / 川上 納 / 田中真一
山下淳一

●連載 & 編集協力(敬称略)

中川大介
長谷山裕一
堺 麻那

●連載(敬称略)

西野鷹志
庄司 証
小宮伸二 / 押野友美
米田哲平 / 近藤 緑
夏井俊介 / ふくだたくま

[@h] 設置場所

【全店配布】ラッキーピエロ/ハセガワストア/郵便局(一部)/生活協同組合コープさっぽろ/みちのく銀行/道南うみ街信用金庫/町会会館(一部)/美容室アイス

【本町・五稜郭付近エリア】函館市芸術ホール/函館市中央図書館/総合保健センター/北海道新聞社(道新文化センター)/函館YWCA/レストランバスコ/ワーカースコープ/シネマアイリス/函館市青年センター/北海道教育大学函館校/Colz/Bees.Bee/函館短期大学付設調理製菓専門学校/クラブカットE'/おおわき整形外科/喫茶Canvas/夏井珈琲ブリュッケ/ちいさなしあわせパン/IG スクエア/Relotta cafe/函館圏フリースクールすまいる

【函館駅前付近エリア】函館市役所/工房虹と夢/Pizzeria AMORINO/NHK/千歳図書室/サンリフレ函館/函館駅前バス案内・待合所/函館市総合福祉センター/百閑

【美原・本通・中道・桔梗付近エリア】亀田支所/渡島総合振興局/Cafe en/ROYAL SKOOL/水花月茶寮/ドゥ・アンジュ/花の湯/桔梗配本所(桔梗母と子の家)/LADIGUE/珈琲物語/Pizza and BIANCHI/お総菜大地/チッチョバスティッチョ/公立はこだて未来大学/文教堂桔梗店/三省堂/タイヤ館函館本通店/亀田公民館/わとな/ファイヤービット/おしま地域療育センター/函館蔦屋書店 FUSU/スプリングボードユニティ21

【西部地区エリア】北海道国際交流センター(HIF)/Pain屋/ふるる函館/MOSSTREES/金森赤レンガ倉庫/FMいるか/丸ノレストラン・ラ・コンチャ/甘味茶房花かんろ/Old Miss 菊/ギャラリー村岡/金子眼鏡店/カフェやまじょう/ロシア極東連邦総合大学函館校/Cafeteria Morie/函館市女性センター/はこだて工芸舎/函館市公民館/函館市地域交流まちづくりセンター/ROMANTICO ROMANTICA/Select Coffee Shop Peacepiece/和雑貨いろは/カフェ三日月/箱館元町 珈琲店/バザール/バザール/Cafe Classic/Cafe & Deli MARUSEN/カフェDici/SMALL TOWN HOSTEL Hakodate/tombolo

【五稜郭駅・昭和エリア】Beauty Concierge AOKI/こじまキッズクリニック/港図書館/タマツ電機/北海道大学水産学部/函館市亀田青少年会館/Seak

【山の手・湯の川・旭岡付近エリア】旭岡図書館/銭亀沢支所/函館市民会館/湯川支所/湯川図書館/函館大学/函館短期大学/函館工業高等専門学校/花園温泉

【北斗市エリア】北斗市役所/かなで〜る/LEAVES/しんわの湯/北斗市スポーツセンター/北斗市公民館/久根別住民センター く〜みん/七重住民センター れいんぼー/Coing

【七飯・大沼エリア】こなひき小屋/ななえ天然温泉ゆうひの館/七飯町文化センター/大中山コモン/ドゥ・エ・タンドゥル洋菓子店・マルス店/レストランピノ/宮崎鯉屋/南北海道大沼婦人会館/カントリ・キッチンWALD/大沼国際交流プラザ/ネイバル森/foufou/Studio Lumier/七飯町役場/大沼国際セミナーハウス/おおば製パン



いろんなこと、募集しています!

●[@h]はおおぜいの方々のボランティアによって支えられています。安定した運営のため、広告の掲載、または協賛して下さる方(サポーター会員)を募集しております。年会費は一口、団体/¥10000、個人/¥3000です。みなさんのご理解とご協力、よろしくお願ひします。なお、広告の掲載料につきましては事務局までお問合せください。

●編集部では読者のみなさまからのご意見・ご感想、さまざまな情報をお待ちしております。お気軽にお寄せください。ご協力よろしくお願ひします。

【@h 編集事務局】

TEL. 0138-22-0770 FAX. 0138-22-0660
E-mail volut@hif.or.jp http://www.hif.or.jp/volut/

次号は
2019年3月20日発行です。

2019年冬号(年4回発行)

2018年12月20日発行

(一財)北海道国際交流センター(HIF)

[@h(アット・エイチ)]編集事務局

040-0054 函館市元町14-1

TEL. 0138-22-0770 FAX. 0138-22-0660

E-mail volut@hif.or.jp http://www.hif.or.jp/volut/